

3節問6 企画書 解答用紙

川越観光－鉄道の課題－

1. 現状 観光客の訪問や帰宅の時間帯にピーク(偏り)が生じている



その結果

その時間帯に、部分的で比較的小規模の「密」が、
何か所かに分布して生じてしまう！

(川越市観光アンケート調査報告書P12より)

2. 改善の
方向性

1の課題から、

観光客の訪問・帰宅時間の偏りを小さくすれば
発生する「密」を抑制できる と考えられる！

3. 具体策

1の現状から訪問時間のピークは8時～13時、帰宅時間のピーク
は14時～17時となっている。(川越市観光アンケート調査報告書P12より)



そこから

1. ピークの時間帯、2. 「密」の抑制において、次の解決策を提案

- 8時～13時までの川越駅・本川越駅・川越市駅着
⇒ 本数を減らし、その時間以外の電車の本数を増やす！
- 14時～17時までの川越駅・本川越駅・川越市駅発
⇒ 同じく本数を減らし、その時間以外の電車の本数を増やす！



こうすることで、

観光客がその時間帯に訪れることを避けるように
なり、時間帯別の訪問・帰宅者数は平均的に
なってくる！

解答用紙 (2) 第6章 コロナ後の観光を考える

(-1) 年 (5) 組 (21) 番 氏名 ()

3 節 問 6 企画書 解答用紙

立場

川越 永川神社のようない観光スポットの職員

視点

コロナ禍の今も、コロナを乗り越えた後も継続できる対策。

- 問題
- ① 観光スポットの訪問箇所が減少 ($\frac{H3}{4.2 \text{ 年}} \rightarrow \frac{R1}{3.5}$)
- ② 駅から遠いほど観光客は減少

観光客の意見

- バスの案内板が判りなくて困った。
- 観光バスを利用しようと思、たが、東武バスとイーグルバスがあって、料金もさうので判かりづらい。

↓ 原因

- 少しに観光地へ行けない。
- バスの案内地図が厚雑で判かりづらい。
(若い子 → めんどくさい
年配の方 → 行きたくても判からない
外国の方 →)
ことなどが関係しているのでは。

対策

- バスの案内地図をシンプルなものにする。

↓

観光地への直通のバスを作る

観光地限定のバスを作る

そのための費用

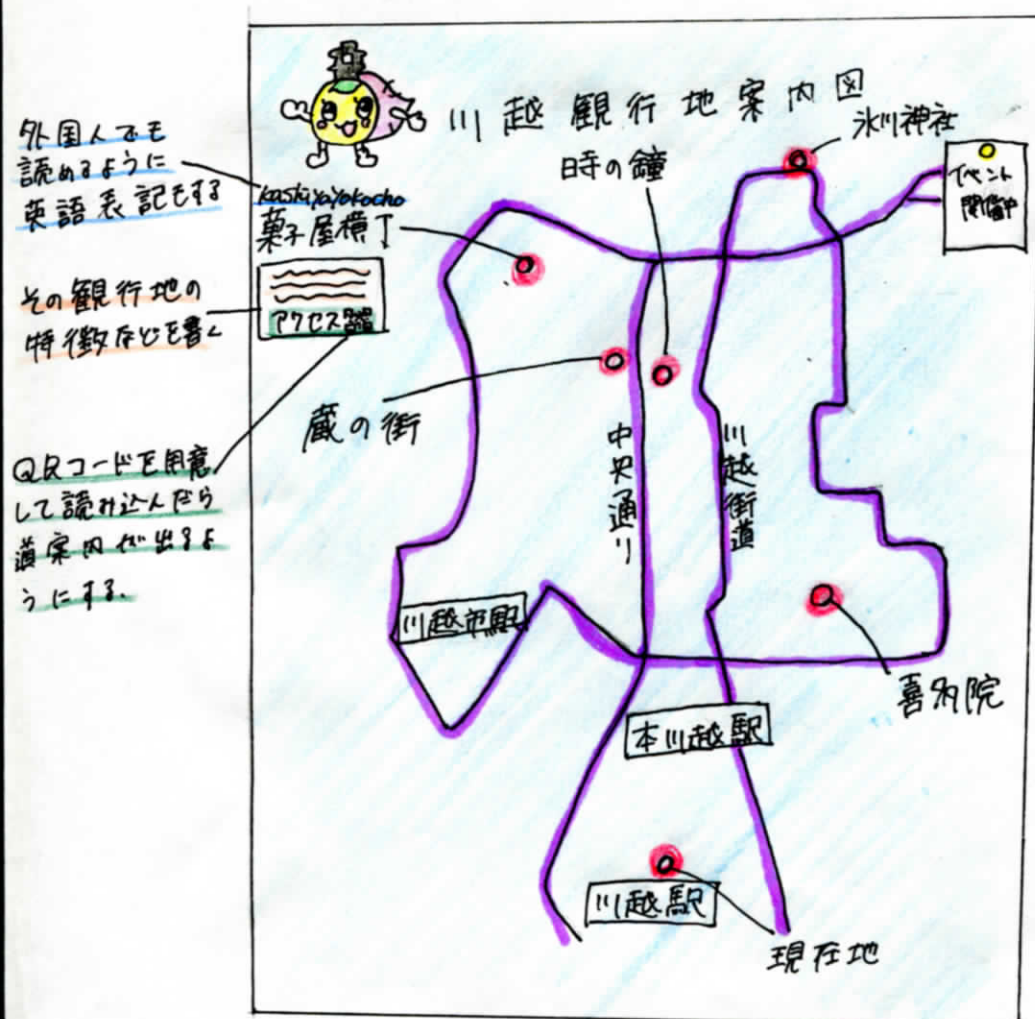
- ・ 観光スポット限定お菓子 + ちょっとした休憩スポット
- ・ イベントを聞く
- ・ 若い人の訪問割合を増やそう。
- ・ 直通のため、コストも安くおむと思う。
- ・ 外国に観光客の方たちも、より多くの観光スポットをまわることができると思う
- ・ 効率的にまわれると思う。
- ・ 観光地だけでなく、他の観光地へも行くという気持ちになる。
- ・ 迷わない

観^光行客を増やすために

～案内板の改善を行う～

現状：案内板が分かりずらく、目的地までの道が
分からず。 (資料 P.18)

課題：案内板を見やすくする。



小江戸巡回バス路線図参考

○観光地の外観に合わせてデザインを変える

○案内板は磁石にしてイベント情報などを貼りつけられるようにする。

○駅などに置く案内図は大きく太雑把で見やすく

○目的地が近くなるにつれ拡大の地図を用意する

これらの方法で案内板を作り、観光地への行きやすくを改善し、観光客 増加を目指す。

バスの利用者を増したい!

課題・問題点

- ・コロナ禍の今もコロナ後も混雑しているバスに乗りたと思う人は少ないと思うので、バスの中の混雑を緩和させる。
- ・駅でバスに乗るのに案内板が分かりづらい。
- ・巡回バスがあるが最終が早い。



企画内容

- ①巡回バスの本数を増やし、利用者の少ないルートの本数は減らす。
- ②バスの中を生中継でネットなどで見れるようにする。
- ③本数を減らし夜でもバスを運行する。
- ④駅のバス乗り場付近に案内所を設置する。

交力果



①②をすることでバスの中の混雑を緩和させることができます。③では観光客が夜まで観光することによって観光客を分散させることができます。④では利用者が迷うことなく目的地に到着することができます。これらのことをすることで利用者の不満を無くし、利用者を増やすことができます。

鉄道のコロナ対策

① 今行っている対策

- ・ 駅や車内の定期的な清掃や除菌・消毒。
- ・ 空調装置や換気装置による空気の入れ替え。
- ・ マスク着用の呼びかけ
- ・ 37リル板・ビニールカーテンの設置 など

② 一部の鉄道において、「半自動ドア」なども利用。

また、「モバイルPASMO」のサービスを開始するなどし、非接触ツールの拡大が行われた。

それによって、接触感染の回避につながった。

③ 臨時列車の運行が相次ぐなか、「のぞみ12ダイヤ」の設定が行われた。本来なら、少ない本数でも需要が満たされていたが、利用者の安全・安心のために列車の増発に踏み切った。

このような新しい対策を継続することにより、観光客の増加につながり。

- (1) マスクを着用し、会話は控えめに。
- (2) 車内換気への理解と協力。
- (3) テレワーク・時差出勤に努める。

上3つを基本として、利用者側も対策を心がけることが大切である。

3 節問 6 企画書 解答用紙

近隣の市や県からの人を増やす。



公共交通機関を増やす。→

観光振興を進めるには
交通に対する利便策を
与えることが必要となる。

コロナが終り、たあとにスムーズに移動できるように、
川越に向かうバスを増やす。

ある論文で 幹線交通の整備による効果を中心に
新幹線の開通や、高速道路の整備が観光にどのような
影響があるか 書かれたものを見た。

〈早川伸二(運輸政策研究機構) 後藤孝夫(九州産業大学)〉
結果的にこれは、観光入客数に影響がないことが分かった。
つまり、遠出をするのに、新幹線や、高速道路は便利でも、
遠くに行くこと自体面倒臭いと感じる人が多いということだ。

なので川越は、県外から人を集めるのではなく、市内や県内から
人を呼ぶのが良いと言える。

そこで武器になつて来るのがバスだと思った。

電車のように駅まで行くことがなくとも、自分の家から近いバス停から、
川越の観光地へ簡単に行くことができる。

電車に乗らないと川越に行けないという観光客も、川越の観光地へ
行くバス(駅から)が今よりも短い時間おきに駅前から出ていけば
それだけで観光地に行く人が増えると思う。

よって、川越は今のように、バスを整備するのが良いと考えた。